

知ってたら自慢できちやうかも?!

市立中央図書館の豆知識

33歳の青年教育家がつくった私設図書館

中央図書館の前身は「石岡書籍館」といって、明治22年9月9日に、石岡尋常高等小学校（現在の石岡小学校）内の一室で始まりました。

創設者は手塚正太郎氏を始めとした若き町民有志。手塚氏は33歳の若さで同校の校長を務めた人物で、郷土愛に燃えた青年教育家でした。

この私設図書館が公立になったのは大正12年。書籍館設立の中心メンバーだった石原彦兵衛氏が石岡町長、手塚氏が助役を務めていた時のことです。

石岡書籍館が誕生した時代背景

石岡書籍館が誕生した明治22年は大日本帝国憲法が公布された年。この頃の石岡市（当時の石岡町）は、水戸市

始まりは住民の寄贈



町民50人の寄付によって和漢洋書500冊余りが集まりました。当時の書籍は手刷りの木版で大変高価なもの。現在も中央図書館に所蔵されています。

茨城県初の図書館



石岡図書館があった旧石岡小学校

明治36年に茨城県立図書館が設立される14年前、町民有志によって私設図書館「石岡書籍館」が設立されました。その後「石岡図書館」と改称されました。

平日は午後7時まで

1日平均約700人ほどが利用し、平成27年からは働く世代にも使ってもらおうと、開館時間を平日は午後7時まで延長しました。

貸出中の本がウェブで予約できるのをご存知ですか。図書館窓口で発行するパスワードを取得すると次回以降、貸出中の本はウェブ上で予約できるようになります。

新たなつながりの場



中央図書館では読書会、朗読、新聞スクラップ、読み聞かせなどの活動を行う10の団体が活動しています。またビブリオバトルも定期的で開催しています。



こども図書館本の森10万人目の入館者、吉崎暖苺ちゃん

に次ぐ人口を有し、県内第二の商都として商業と醸造・製糸などの産業が栄えました。

明治28年には日本鉄道土浦線（現常磐線）が開通し、石岡・高浜駅が開設されました。明治前期は有力実業家が自分たちで地域を発展させようとした時代。そのための投資として図書館への寄贈も行われていました。

明治、大正、昭和の激動の時代を経て、現在の場所に図書館が建ったのは、昭和55年のこと。平成元年の創立100周年に刊行された記念誌には、生涯学習の拠点、インターネットなどのニューメディアに対応できる機能の強化を目指すと書かれています。

県内で初めての

独立型のこども図書館

平成29年4月には、小学校高学年までを対象にした約4万冊の児童書をそろえた「こども図書館本の森」を開館しました。子どもに読み聞かせができる部屋もあり、親子がくつろいで過ごすことができる場所。8月25日には利用者10万人を達成しました。

10万人目は吉崎暖^のちちゃん（小1）。「子連れで入りやすい図書館だと思う」と暖^のちちゃんのお母さんは話します。

新しい時代「令和」の図書館は、本を借りるだけでなく、出会いと発見、新たなつながりをつくることができます。を目指していきます。

ぜひお越しください

130周年記念事業

直木賞作家北村薫対談

本と本づくり

日時／10月13日(日)午後2時

創立130周年

記念セレモニー

日にち／11月2日(土)

第一部（午前10時30分から）

中学生対抗ビブリオバトル

実演と表彰

第二部（午後1時30分から）

直木賞作家久根達郎講演会

& 今泉文彦市長のミニ対談

石田千講演

図書館のたのしみ

日時／11月9日(土)午後2時

東直子・穂村弘対談

読書と読者

日時／12月1日(日)午後2時

詳しくはホームページで☆

10月1日は石岡市民の日

「石岡とスポーツ」 市民史跡めぐり参加者募集

日時：10月27日(日) 午前9時～午後4時
コース：常陸國總社宮・日枝神社（土浦市）・正法寺ほか（天候などで変更する場合あり）
申込方法：往復はがきに「市民史跡めぐり希望」と書き、①住所②氏名③年齢④電話番号⑤希望人数（1枚で2人まで）を明記の上、文化振興課（〒315-0195 石岡市柿岡 5680-1 八郷総合支所）に申し込み。2人申し込む場合は①～④までを2人分記入。

申込期限：9月27日(金)（必着）

定員：30人（定員を超えたら抽選。結果は全員に返信用はがきでお知らせします。昼食は各自持参。当日は歩きやすい服装・靴で）

☎文化振興課（支所）

Tel 43-1111（内線 1324）



▲常陸國總社宮例大祭（石岡のおまつり）の奉祝祭（今年は9月15日午前11時）に行われている奉納相撲は、延享年間（1744～48）頃に始まった例大祭で最も古い催しの一つです。武双山や雅山など茨城県を代表する力士も高校時代に境内の土俵で戦ったことがあります。史跡めぐりでは、この土俵をはじめ、流鏝馬を行う日枝神社などを訪ねます。小幡地区での弓矢づくりとのつながりも、知ることができます。